

報 告 書

2021年9月28日

活動実施団体名 東京都生物教育研究会

責任者名 内田 隆志

報告書作成者名 関口 伸一

1. 活動の名称 (タイトル・テーマなど)

「ムササビとムササビの森を見よう！」

2. 実施日

令和3年8月28日 (土)

3. 実施場所

高尾山薬王院及び599ミュージアム

4. プログラム等

14:00 集合 (京王線高尾山口駅前広場)

14:10 599ミュージアムへ移動

14:20-15:30 講師岡崎弘幸氏による講演「ムササビの生態とその観察」

15:30-16:00 599ミュージアム見学

16:00-16:25 ケーブルカーで高尾山駅まで移動

16:40-17:40 フィールドサインなどを探しながら薬王院へ移動

講師：岡崎弘幸氏、浦上美夏海氏

17:40-18:30 薬王院周辺でムササビの巣穴の観察

18:30-19:30 ムササビ観察

19:30-20:30 ムササビや昆虫を観察しながら京王線高尾山口へ移動

20:30 解散

5. 対象・参加人数 (内訳)

国立筑波大学附属駒場中学校・高等学校：中学生5名、高校生1名 教員2名

都立東久留米総合高等学校：高校生8名、教員1名

私立海城中学高等学校：中学生4名、教員1名

合計22名 (中学生9名、高校生9名、教員4名)

6. 活動の内容・状況・感想（参加者並びに主催者）

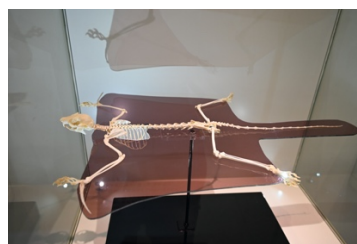
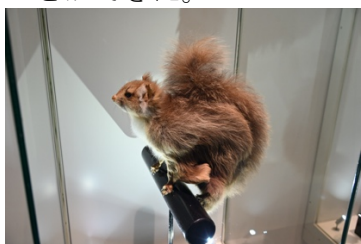
○ムササビの生態とその観察方法の講義

599ミュージアムにて、岡崎弘幸氏にムササビの生態とその観察方法について講演をしていただいた。ムササビとモモンガ、ヒョケザルの違いや、ムササビが巣穴とする樹洞の特徴、「ムササビは、日没後30分から日の入り30分前まで活動をする」など、観察において必要な生態を踏まえてわかりやすくムササビの生態についてお話をしていただいた。続いて、岡崎氏が中央大学附属中学高等学校の生物部が取り組んできた高尾山でのムササビ調査の方法や保護したムササビの話、顕微鏡の木箱を利用した巣箱など、ムササビに関わる様々な興味深い話をしていただいた。また、観察をする際の注意点について話をいただいた。写真などをたくさん利用したスライドとムササビにまつわる面白い話が続き、生徒たちは終始うなずきながら興味深く話を聞いていた。



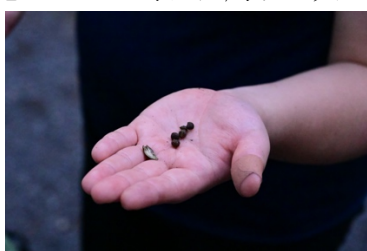
○599ミュージアム見学

599ミュージアムには、ムササビの剥製や骨格標本などムササビの展示があり、ムササビの体の構造をわかりやすく学ぶことができた。ムササビの前脚には針状軟骨があり、飛膜を広げる構造がよくわかった。また、高尾山に生息する哺乳類、鳥類の剥製や昆虫の標本、植物の標本などが多く展示されており、ムササビが生息する高尾山の自然について理解を深めることができた。



○ムササビが残したフィールドサインを探せ

講師の岡崎弘幸氏や浦上美夏海氏から、ムササビが残すフィールドサインの見つけ方について教わり、参加者でそれを探した。スギなどの大木の樹の下にムササビの糞があり、アカガシやイヌシデの樹の下には食痕が残った実や枝などがあつた。生徒たちはこうしたフィールドサインを熱心に探して、見つかった時には周りの人たちに喜びながら見せていた。



○ムササビの巣穴観察とムササビの観察

講師の岡崎氏、浦上氏から高尾山薬王院周辺でのムササビの巣穴の場所やムササビの観察方法について教えていただいた。ムササビを観察する際は、事前に巣穴を見つけておき、そこから出てくるところを観察するのが良いとのこと。巣穴は樹洞の他に建物の屋根裏にもあった。今回は2つの樹洞に注目して、ムササビの観察を行なった。当日の日の入りは18時14分であり、18時45分に樹洞から1頭のムササビが出てきて滑空する様子を観察できた。観察中は大きな声をあげてはいけないので、生徒たちは静かに歓声をあげていた。



○参加者感想

- ・ムササビが残すフィールドサインなど、ムササビを探す上での手段（ついでにフクロウの鳴きまね）や、高尾山の野生生物の情報など、有益で興味深い話がたくさん聞けた。
- ・ムササビは想像したよりも大きく、また、飛ぶ瞬間は素早いと思った。ムササビは草食で、日の入後30分後から活動を開始し、日の出30分前には巣穴に戻り、ほぼ毎日その通りに活動をしていて、すごいなと思った。子育ての様子に成功しないかもしれないということを知って、驚いた。
- ・ムササビの生態が知れてよかった。今まで、東京にムササビがいるのを知らなかった。また観察したい。

○主催者感想

都内であり、有数の観光地となっている高尾山で実際にムササビが見られるのは驚きである。今回は講師の岡崎氏、浦上氏がご自身の研究や観察などの体験を元にわかりやすくムササビの生徒やフィールドでの観察方法をお話下さったので、「知識をつけ、その知識を元に実際にフィールドで観察する」というとても充実した内容の濃い研修となった。コロナ禍もあり、生徒たちはじっくりと自然を観察する機会に恵まれていないこともあってか、生徒たちにとってこの研修の時間がとても有意義に感じているように見えた。ムササビが見られたことはとても嬉しかったが、2つの樹洞からムササビが出るかと思っていたら、1つの樹洞からしかムササビは出てこなかった。もう一つの樹洞から出てくるのを待っていたが、結果的には出てこなかった。フィールドでの観察はこのように必ず出会えるものではなく、粘って観察をしても見られないこともあり、こうした体験も良い学びになったであろう。また、フィールドサインを探したり、夜間に自然観察をしたりする体験は生徒たちにとって、とても新鮮であり、貴重な体験となったに違いない。「またムササビを観察したい」や「高尾山の自然観察にまた来たい」という参加者の声が多く聞くことができた。参加した生徒たちの自然に対する興味関心が高まったであろう。

今回、このような充実した研修をしていただいた、講師の岡崎弘幸氏、浦上美夏海氏、及びこの研修への助成金を出していただいた、公益財団法人藤原ナチュラルヒストリー財団に深く感謝申し上げます。